

**連携提案： 文字を書く行為の分析などにより、学習教材の制作、筆記具の開発支援、アナログ・デジタルの手書きの未来を考える**

キーワード: 手書き、文字、筆記具、持ち方、筆順、字形

人文・社会教育学系 教授

押木 秀樹 OSHIKI Hideki

連携提案内容と効果

漢字文化圏では、3000年以上も手で文字を書いてきました。それがこの数十年で、手書きせずに文字が使えるようになりました。

デジタル化の時代に、文字を手書きすることはどう変わっていくのでしょうか。手書きする行為の分析的研究の成果を踏まえ、これからの手書きをともに考えたいと思います！

こういう時代であっても、こういう時代だからこそ、文字を美しく手書きしたいという声を聞きます。そのために、時代に即した教材(CAIを含む)、学習方法を考えます。

単に読みやすいだけ、均一な美しさで良ければ、パソコンのフォントでよいでしょう。手書きならの良さは、その人らしい字にあります。これからの手書きと文字を考えます。

移動のために走るのではなく、気持ちよくジョギングするように、「気持ちよく書く」ということもあるでしょう。気持ちよく書くことのためには、フォームや用具も大切です。そのために、筆記具のあり方を考えます。



なぜ筆順を覚えるのか？  
デジタル時代の手書きとは？

アピールポイント

小中学校の先生方を対象とした書写に関する講演、書写教科書の編集、教材開発などが主たる学外での活動です。加えて、筆記具や文字を書くことに関する民間企業との相談などもおこなっています。

連携したい分野

- ・書写教材、手書きに関する教材の開発・支援
- ・筆記具や文字を書くことに関する企業等
- ・デジタルとアナログの手書きに関する分野
- ・書写教育のレベル向上を目指す学校等

研究テーマ： 文字を書く行為に関する研究

プロフィール	新潟県生まれ。県立高校教諭、金沢大学教育学部を経て、1998年より上越教育大学。2006年高等学校学習指導要領作成協力者、2015年文化審議会国語分科会 専門委員、全国大学書写書道教育学会理事長などを歴任。	専門分野	書写教育および書字行為の分析的研究
関連URL	<a href="http://www.shosha.kokugo.juen.ac.jp/">http://www.shosha.kokugo.juen.ac.jp/</a>	主な研究内容	1) 書字行為の分析的研究 2) 書写教育の学習内容論(教材論) 3) 書写教育全般

関連する業績等

手書き文字研究の基礎としての研究の視点と研究構造の例、書写書道教育研究 (11), 1997年  
手書き文字に対する読みやすさ等の感覚とその世代差に関する研究(共著)、書写書道教育研究(14), 2000年  
自動照合に効果的な日本字署名のデザイン(共著)第4回国際書学研究大会記念論文集, 2000年  
望ましい筆記具の持ち方とその合理性および検証方法について(共著)、書写書道教育研究(11), 2003年  
手書き文字におけるパラ言語的機能としての規範性と個性等について(共著)、書写書道教育研究 (30)、2016年  
書字における筆圧の影響と筆記具による改善の可能性(共著)、書写書道教育研究 (33)、2019年

お問い合わせは、押木研究室 oshiki@juen.ac.jp